# 京都産業大学

## ことばの科学研究センター

## 2023 年度 第 6 回研究会

12 月 27 日（水）14:00～16:00

4 号館 2 階総合学術研究所

### 海外における俳句受容プロセスの深化について（スペイン語圏を中心に）

井尻 香代子（文化学部教授）

俳句は日本の伝統詩歌の中で最も新しいジャンルの一つである。明治開国後、正岡子規と高濱虚子によって確立され、国内では 1000 万人の俳句人口を抱えるといわれるが、一方、19 世紀末より海外で受容され、多言語のハイクが実作されてきたことは日本ではあまり知られていない。では、日本の俳句と他言語のハイクは同じジャンルといえるのだろうか。俳句・ハイクの連続性を形式と内容の両面から探ってみたい。

### ロシア語と日本語の文学作品における述語動詞の観点からの発話表現の通時的比較

北上 光志（ことばの科学研究センター員・外国語学部教授）

世界の歴史が大きく変わる 19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて、ロシアと日本の小説おける表現にどのような変化が見られたかを、今回は会話表現にスポットを当て、計量言語学の観点から明らかにする。文学作品において会話は直接話法構文によって表される。本稿は直接話法構文の会話形式と述語動詞の関係を分析しながら、従来の研究では不十分であったロシア語と日本語の小説における会話表現の特徴を考察する。